

従来の職域別ではない新しいカテスタッフの導入、及び動線を意識した環境整備

<sup>1</sup>IMS グループ 医療法人明芳会 横浜新都市脳神経外科病院

河本 奈緒美<sup>1</sup>、本田 麻希<sup>1</sup>、大沢 千春<sup>1</sup>、荻原 孝子<sup>1</sup>

【目的】H23年4月に循環器の医師を常勤として招きPCIを開始した。一方で従事するスタッフはPCI未経験者であったため、知識・技術の習得、急変時の対応、医療機器についての確認をし、共通の認識、知識、行動ができるカテチームの結成をしていく必要があった。【方法】当院で過去にCAG、PCI実施症例はなく、まず従事する看護師、放射線技師、検査技師、CEとともに知識を深めるため専門施設での研修を行い、皆が共通の役割をこなせるようにした。また環境整備として緊急薬品、動線を意識した物品配置の工夫を行い急変時チームとして動きやすいような環境整備を実施した。そして腎機能をはじめとした全身状態を把握できるよう週1回カンファレンスを行い、全員が患者情報を共有しカテに臨めるよう体制を整えていった。【結果】H23年4月よりCAG、5月中旬よりPCIを開始し、H24年6月までにPCI（CAG含む）705件実施。さらに、専門施設でのトレーニングや環境整備を実施したことで、緊急時に使用する医療機器や薬品を把握し、急変時混乱することなく予測し速やかな行動ができるようになった。そして、従来の職域別ではない医師も含めたカテチームとして皆が同じような役割、行動ができるよう努力している。【結論】PCI導入にあたり専門施設でのトレーニング、医師の講義、カテ室の環境整備を実施したことで、速やかに緊急対応することができ準備してきた内容は適切であったと考える。今回、PCI/CAGを新規導入にあたり我々が行った創意工夫項目を示す。